システム開発作業標準

第1.0版

2021年 12月 17日

システム開発演習B

１．はじめに

本文書は、「システム開発演習B」におけるシステム開発の作業標準を定めるものである。当授業におけるシステム開発作業は、特段の理由がない限り、本作業標準に沿って実施するものとする。

２．開発プロセスや技法に関する作業標準

1. システム開発に適用する開発プロセスは、原則としてウォータフォール型、もしくはプロトタイピング型とする。アジャイル型およびその他のプロセスの適用を検酎する場合は、担当教員による承認を必要とする。
2. 開発プロセスとしてウオーターフォール型を適用する場合、各工程の名称には次のものを使用する。

「要求定義」、「要件定義」、「外部設計」、「内部設計」、「製造」、「単体テスト」、「結合テスト」、「総合テスト」

1. システム開発に適用する分析・設計技法は、原則として構造化分析・設計もしくはオブジュクト指向分析・設計とする。他の技法の適用を検討する場合は、担当教員による承認を必要とする。
2. システム開発に適用するプログラミング言語は、Javaを用いるものとする。他のプログラミング言語の適用を検討する場合は、担当教員による承認を必要とする。

３．　文書に関する作業標準

1. システム開発において作成する文書の形式、用字と用語、その他すべてのルールは教科書１「ずっと受けソフトエンジニア新人研修\_第３版」の36～40ページにおける解説の中の下記を適用する．

「語尾の音引きなし」，「拗音として書く」，句点は「、」読点は「。」を用いる．

1. システム開発においては．原則として、次表に示す文書を作成し、少なくとも指定された項目を記述する。文書の作成を省略する揚合や、必要項目を省略する場合は、担当教員による承認を必要とする。

|  |  |
| --- | --- |
|  | 文書名称 |
| １ | 要件定義書 |
| ２ | 外部設計書 |
| ３ | 内部設計書 |

以上